

平成 28 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 グ リ ー ン ペ プ タ イ ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 永 井 健 一  
(コード番号：4594 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 酒 井 輝 彦  
(TEL.03-5840-7697)

### **神奈川県立がんセンターとの共同研究開始に関するお知らせ**

この度当社は、地方独立行政法人 神奈川県立病院機構（以下、神奈川県立病院機構）と、新規がん免疫治療薬候補として臨床応用を目指した新規遺伝子変異抗原（Neo Antigen<sup>※1</sup>）の探索と臨床応用のための研究を行うために共同研究契約を締結したことをお知らせいたします。

#### (1) 研究目的

近年の免疫チェックポイント抗体の台頭とともに、がん細胞内で発生する遺伝子変異が新たながん免疫治療のターゲットとして注目されています。また、次世代遺伝子シーケンサー<sup>※2</sup>の登場により、ここ 10 年で遺伝子解読技術は飛躍的に向上し、がん患者の体内の免疫系ががん細胞を攻撃するときの目印として用いる抗原<sup>※3</sup>をより広範囲に渡って網羅的に解析することが可能となりました。

現在当社は、1991 年のブーン博士らによる腫瘍抗原の発見から間を置くことなく、久留米大学において 1990 年代から 2000 年代にかけて網羅的に探索・同定された数百の新規抗原ペプチドの中から、免疫増強能力の高い抗原ペプチドを新規がん免疫治療薬候補として、国内(ITK-1)と米国(GRN-1201)で臨床試験を実施しております。

そこでこれらの経験と近年の技術革新を踏まえ、当社は次世代のがん免疫治療のターゲットとして近年注目度が非常に高まっている、遺伝子変異に起因するがん抗原(Neo Antigen)の探索と臨床応用を目指した研究を進めて参ります。

今回研究を共に進める神奈川県立がんセンター・臨床研究所がんワクチンセンターの笹田 哲朗がん免疫療法研究開発学部長は、これまで多数のがん免疫療法の基礎研究および臨床研究に参加し、米国で免疫チェックポイント抗体イピリムマブ(抗 CTLA-4 抗体)の臨床開発に携った経験を基に現在 Neo Antigen の研究開発を精力的に進めており、当社は本共同研究における強力なコラボレーション体制が築けるものと期待しております。

#### (2) 神奈川県立病院機構について

神奈川県立病院機構は、神奈川県内に 5 つの県立病院を運営しており、今回の共同研究は、そのうちの 1 つである神奈川県立がんセンターの臨床研究所のがん免疫療法研究開発学部(<http://kcch.kanagawa-pho.jp/kccri/organization/menekiryoho.html>)において実施予定となっております。

同研究所は開所以来 30 年の歴史を有し、当社が手掛けるがんペプチドワクチン療法をはじめとしたがん免疫療法に関する豊富な見識を有しています。また、Neo Antigen の同定・評価を行った実績も有しており、本共同研究は当社の今後の研究開発に当たって非常に有意義なものになると考えております。

(3) 共同研究の概要

研究名	新規がん免疫治療薬ターゲットの探索研究
研究目的及び内容	新規遺伝子変異抗原 (Neo Antigen) の新規免疫治療薬のターゲットとなりうる分子の探索・評価を行う。
研究実施場所	神奈川県立がんセンター 臨床研究所 株式会社グリーンペプチド
研究期間	契約締結日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(4) 今後の見通し

本共同研究契約の締結による当社の平成 29 年 3 月期の業績に与える影響につきましては、軽微であります。

以上

【語句説明】

- ※1 Neo Antigen (ネオ・アンチゲン) : がん細胞独自の遺伝子変異に伴って新たに生まれた変異抗原で、正常細胞には発現せずがん細胞に特異的に現れます。がん細胞に特異的な Neo Antigen は免疫系が反応するポテンシャル (免疫原性) が高く、Neo Antigen が多いがん種は免疫チェックポイント抗体等のがん免疫治療薬の効果が出やすいという研究報告があります。
- ※2 次世代遺伝子シーケンサー (NGS/ Next-Generation Sequencing) : 遺伝子配列の解読を行う機器の総称で、近年その解読スピードが高速化するなど性能が飛躍的に向上しています。
- ※3 抗原 (Antigen/アンチゲン) : 免疫系(細胞傷害性T細胞)ががん細胞を認識し攻撃するときの目印となるもので、がん細胞で作られるタンパク質やその断片(ペプチド)。ITK-1(国内第Ⅲ相臨床試験実施中)と GRN-1201(米国第Ⅰ相臨床試験実施中)は、どちらもがんペプチドワクチンであり、体内にある抗原(ペプチド)を化学合成により製造した複数種のペプチドによって薬剤が構成されています。

【株式会社グリーンペプチドについて】

当社は、人が体の中に備え持つ免疫の力を利用してがん細胞を殺傷する「がん免疫治療薬」の研究・開発を行う創薬ベンチャーです。がん免疫治療は、手術、放射線療法、化学療法に次ぐ、がんの「第 4 の治療法」として期待されています。

当社は、現在治験を実施している 2 本のがんペプチドワクチン (前立腺がんを対象とする ITK-1 とメラノーマを対象とする GRN-1201) に軸足を置きながら、日本発の創薬コンセプトを世界へ発信する新規がん免疫治療薬を創製し、がん治療の革新に貢献して行きます。